

釣りでもしながら

リマ・ラインハット

注意事項

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

あらすじ

山城改二実装？祝いの航空戦艦メタトック。扶桑姉様の口調が崩壊してるのは我が鎮守府の近代化改修要員だからなんだ…。姉様のファンよ、すまない。

目次

釣りでもしながら

1

釣りでもしながら

宿毛湾鎮守府 某支部 戦艦寮 108号室 伊勢型の部屋

日向改「どうやら前回のアプデで初春に改二が実装されたらしいな。」

伊勢改「そうだね。…ねえ日向？実際の所、私達ってどうなのさ？」

日向改「私達？」

伊勢改「よく日向は航空戦艦の時代だーって言うてるけどさ。正直私達って扱い悪いじゃない？」

日向改「軽空母並の艦載機に超火力。甘く見られては困るな。」

伊勢改「瑞雲しか積めないけどね。火力も前より落ちちやったし。」

山城改「運は上がらないし。」

日向改「…居たんだ、山城。」

山城改「さつき入渠が終わったんで。」

伊勢改「御茶飲む？湯呑み小さいのしかないけど。」

山城改「ありがとうございます、頂きます。」

日向改「話を戻すと、装甲と耐久力が上がったじゃないか。」

山城改「やっぱり盾があるとないとしや違いますよね。」

日向改「いや、飛行甲板は盾じゃないんだが…。」

伊勢改「そうだよ…折角の飛行甲板なんだからさ、大切にしないと。」

山城改「だって伊勢型も扶桑型も飛行甲板の構えかたが完全に盾じゃないですか。」

伊勢改「た…確かにそうだけど…。」

山城改「良いんです強くなれば。」

山城改「私達扶桑型なんてやれハズレ戦艦だ不幸だ尻だ胸だ伊勢型の出来損ないだ欠

陥戦艦だ…。」

伊勢改「アハハ…ま、まあそれだけ注目されてるって事じゃん。」

日向改「確かにそうなるな。山城の不幸が姉の扶桑にまでうつってしまったからな。」

山城改「姉様にまで迷惑をかけてしまうなんて…。不幸だわ…。」

伊勢改「そ、そういえば御姉さんは？なんだかいっつも御姉様御姉様くって言ってる

けど。」

日向改「確かこの前の熔鉱炉でドロップしたんじゃないか？」

山城改「扶桑型は欠陥戦艦扱いですから…。姉様13号は雪風ちゃんの中に（近代化

改修）…。」

日向改「まあ…そうなるな。駆逐艦は火力に欠けるからな、戦艦は格好の強化素材

だ。」

伊勢改「ちよつと日向!?!どーしてそーゆー風に愛想無いかなー…。」

日向改「なんだい?何なら甘えてあげようか、伊勢姉様?」

伊勢改「ホント日向は素直になれば良い娘なんだけどなあ…。」

山城改「嗚呼姉様、どうしていらつしやらないの?不幸だわ…。」

伊勢改「なんか山城イジけちやったんだけど、どうするのさ日向?」

日向改「その内に立ち直るじゃないかな。」

伊勢改「そうじゃなくて!」

伊勢改(速く話題を反らさない空気、重くなつちやうじやない!さつきからずっと語尾が不幸だし。)

日向改(良いんじゃないやな:解つた協力するよ。だからお願いだから41cm砲を下ろしてくれ、伊勢。)

日向改「素直と言えば、駆逐艦の娘達は皆無垢だな。」

伊勢改「誰かさんと違つてね?」

日向改「ム…。まあ、何だかんだ年長者で交代で世話してるからな。」

山城改「私…。」

伊勢改 日向改(やっと立ち直つた!)

山城改「この前、当番であの娘達の担当だったんですけど…。」

く回想く

ムラクモ「本つ当落ち着きが無いわね…。ま、実戦の時は私が支援するんだから安心だけどね。何？不満なの？」

暁「辛い時は支え合うのが一人前のレディなんだから！遠慮は不用よ！」

響「大丈夫、私達がついている。」

白雪「私でお役にたてる事があるなら何時でもお申し付け下さい。」

巻雲「山城さん？何かあったから巻雲に任せて下さいねー！」

雷「辛い事があるなら何時でも雷に相談してよね！」

山城改「やたら気を遣われたんですけど…。」

日向改（不幸オーラの性だな。）

伊勢改（間違いなく雷が発端だね。あの娘面倒見が良すぎるし。）

山城改「駆逐艦に餌にされ、果ては同情される私達扶桑型って…。」

日向改「常に3メートルは距離を置かれるよりは良いだろう？」

山城改「それは主砲の大きさでは？」

日向改「主砲含めると5メートルは置かれてるな。」

伊勢改「アハハ……日向は慕われてないわけではないと思うけどね。」

日向改「彼女達には艦娘の何たるかをよく指導しているからな。怖がられるのも無理はないな。」

伊勢改「私はよく釣りに連れてつてるけど日向も来てみる？」

山城改「釣り、指導？そんな話が……。」

伊勢改「まあ……時間が無いと出来ないからね。その点、山城は……。アレ？山城、スマホ鳴ってない？」

山城改「ホントだ……。はい、山城です。はい、はい、了解しました。」

山城改「第一艦隊出撃みたいなのでお暇します。御茶ありがとうございます。」

伊勢改「そう？話の続きは帰ってからにしましょうか。」

日向改「そうだね。確か3-4の攻略だったかな？」

山城改「いえ、1-5みたいです。3-4は私の不幸の性で羅針盤に勝てないですけど。」

伊勢改「流石にアレは関係ないでしょ。」

日向改「なるほど。召集が山城にしかかかって無いつて事は二回攻撃狙い……恐らくは海域ボス撃破目的だな。」

日向改「何しても今日も駆逐艦の世話をする事になりそうだ。」

伊勢改「まあ、そうなるな。なんちやって♪」

山城改「それじゃ夜にでもまた伺います。」

日向改「わかった。いってらっしゃい。」

伊勢改「開幕爆撃には気をつけてねー！」

伊勢改「まあ、あんだだけ不幸不幸言ってるけどさ。実際あの娘って結構充実してると思っただよね。」

日向改「第一艦隊からただの一度も外れた事が無いからな。」

伊勢改「ドーセ史実無視できるんだから徹底的に無視してやらあつて感じだからね。ウチは。」

日向改「そうだな。ん？運営電文が更新されてたみたいだ。さっきの着信の時と同じだったから気づかなかったな。」

日向改「新しいアプデ、コレは…？フフ…伊勢、運営電文を見てみてくれ。」

伊勢改「何々々？お！なるほどね。提督が山城を呼んだのはそういう訳。」

日向改「最も練度が少しばかり足りないから当面の間は鎮守府周辺の潜水艦が地獄を見ることになると思うけどな。」

伊勢改「後、設計図だね。ともあれ改二実装おめでとう！山城。」

伊勢改「…ひよつとしたら流れに乗って私達も改二実装したりして？」

日向改 「流石にソレは…いや、あるか？」

伊勢改 「ま、釣りでもして気長に待とうか♪一緒に行こうよ、日向？」

日向改 「そうだな。たまにはゆっくりしようか。」